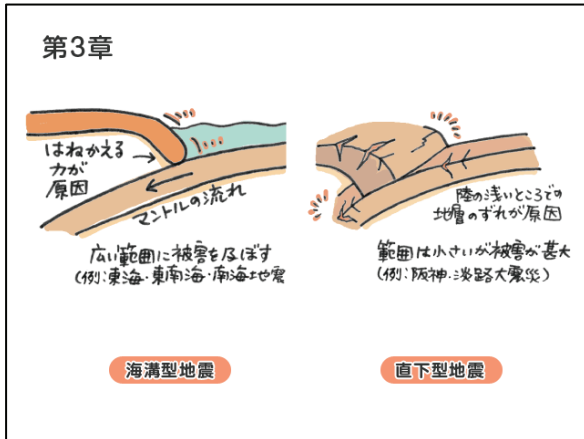


## 地震ハザードマップの活用方法

地震ハザードマップが教えてくれるのは「その地域で起こりやすそうな被害」。地盤や地形の状況を知ること、被害に備えましょう。



### 地震の種類

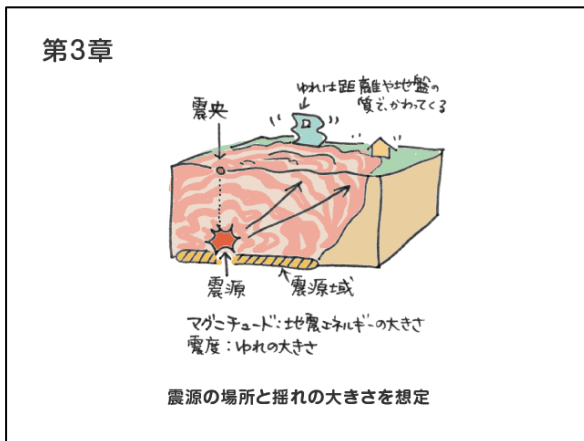
日本では、海溝型地震と直下型地震の両方を想定しなくてはならない。

#### 【海溝型地震】

東日本大震災のように、広い範囲に被害が及ぶ地震。

#### 【直下型地震】

阪神・淡路大震災のように、範囲は狭いが被害が大きい地震。首都直下地震などもこの種類の地震として警戒されている。



### 地震ハザードマップの作成方法

震源の場所と揺れの大きさ(震度)を想定し、震源からの距離や地盤の状態、地形などをもとに作成される。

震度とマグニチュードの違いは、次の通り。

【震度】揺れの大きさ

【マグニチュード】地震そのものの  
エネルギーの大きさ

### 地震ハザードマップからわかること

その地域にもたらされる「揺れの大きさや揺れ方の様子」が示されている。

地域によっては、複数の地震パターンに基づいたハザードマップが用意されていることもある。

MEMO

### 第3章

#### 揺れによる被害

気象庁資料より抜粋

##### 震度5弱

- 大半の人が怖いと思ひ、物につかまらないうちに感じる
- 棚にある食器類や本が落ちることがある
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある



##### 震度6弱

- 立っていることが困難になる
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある
- ドアが開かなくなることがある
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある
- 耐震性の低い木造建物は、互が落下したり、建物が傾いたり、倒れるものもある



##### 震度7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる



##### 震度5強

- 物につかまらないうち歩くことが難しい
- 固定していない家具が倒れることがある
- 補強されていないブロックが倒れることがある



##### 震度6強

- はわないと動くことができず、飛ばされることもある
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地滑りや、山林の崩壊が発生することがある



## 震度の大きさ

揺れの大きさは、「震度」で表現される。震度の上限は「7」。

震度に応じたおおよその被害は想定できるが、被害の大きさや壊れ方は、建造物の状態によって大きく異なるため、震度が小さいからと言って油断してはならない。

#### 【震度5強】

歩くことは難しくなり、家具やブロック塀などが倒れはじめる。

#### 【震度6弱】

立っていることも難しくなり、壁のタイルや窓ガラスが壊れ、建物が傾いたり倒れたりする。

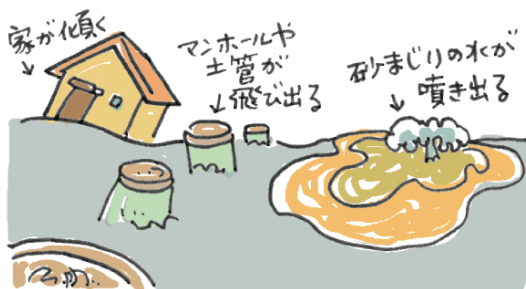
#### 【震度6強】

這わないと動けないほどの揺れ。建物の被害はさらに大きくなり、大規模な地滑りや山崩れなどが発生する事もある。

#### 【震度7】

耐震性の高い建物であっても傾くことがある。

### 第3章



液状化現象

## 地震によるその他の被害

地域の状況により、液状化現象や津波が起きる危険性もあるため注意が必要である。

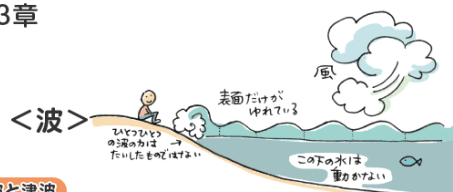
#### 【液状化現象】

マンホールや土管が地上に飛び出したり、家が傾く、砂混じりの水が噴き出すなどの被害が出る。

#### 【津波】

海の表面だけの波ではなく、海底から海面までが1つの塊のようになって押し寄せそのため、凄まじい破壊力。50cmの津波であっても人間が飲み込まれる危険がある。

### 第3章



波と津波

#### <波>

表面だけが揺れている  
この下の水は重たおぼい

#### <津波>

この水の固りは重た破壊力大きい  
たおぼい50cmでも、人が流される危険あり  
ひたつたおぼい水が全体を重たおぼい

### MEMO